

第76回 卒業証書授与式 式辞

正門から東に望む高縄山。その頂から昇る朝日が、今日ここに集う卒業生の皆さんをやさしく包み込み、穏やかな春の気配が感じられるこの佳き日に、令和7年度愛媛県立北条高等学校第76回卒業証書授与式を、かくも盛大に挙行できますことは、私ども教職員一同、この上ない喜びであり、心より感謝申し上げます。

本日御臨席の御来賓の皆様におかれましては、日頃より本校教育活動に対しまして温かい御理解と御支援を賜り、また今日まで卒業生を優しく見守り支えてくださいましたことに、厚く御礼申し上げます。

只今、卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

そして、本日この晴れの日を迎えられました保護者の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。お子様の成長を信じ、時に励まし、時に静かに見守りながら支え続けてこられた日々は、決して平坦なものではなかったことと拝察いたします。本日、お子様が立派に卒業の日を迎えられましたことは、何よりも大きな喜びであり、誇りであられることでしょう。これまでの深い愛情と御尽力に、教職員を代表して心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、この冬、イタリアの地で開催されました冬季オリンピックでは、世界の舞台に立つ選手たちの姿が、私たちに多くの感動を与えてくれました。けがや痛みにも耐え、転倒しても立ち上がり、最後まで滑り切る選手。わずかな差に涙しながらも、次の挑戦を誓う選手。前回大会で涙を流し、一度は諦めかけた競技人生を踏みとどまり、逆転でメダルを獲得した選手。彼らの姿が教えてくれたのは、「失敗は終わりではない」ということです。我々の人生において、失敗は決して特別なものではありません。誰もが失敗を繰り返しながら成長していきます。

今日、北条高校を旅立つ皆さんの前には、これから幾つもの選択肢が広がっています。どちらに進むか悩むことも多いでしょう。

しかし、人生は、二つとして同じものはありません。誰かの答えをなぞるのではなく、失敗を恐れず、自らの手で、自らの色で、自分だけの人生を描いていってください。

人生は、山登りにもたとえられます。険しい急な坂道を一気に駆け登る道もあれば、遠回りをしながらゆっくりと登る道もあります。どちらが正しいということはありません。大切なのは、自分の足で、一步一步、頂を目指して登り続けることではないでしょうか。

今日、皆さんは北条高校という一つの山を登りきりました。しかし、人生の山はこれからです。高縄山から昇る朝日が、急ぐことなく、しかし確実に空を明るくしていくように、恐れず挑み、ときには深呼吸をしながら、自分の頂に向かって、自分の選んだ道を登り続けてください。

結びに、卒業生の皆さんの健康と、洋々たる前途に、幸多からんことを心より祈念申し上げ、式辞といたします。

令和8年3月1日

愛媛県立北条高等学校長 菊池 正敏